



下山佐地区のイチオシ!



まの繁栄を願った地
~月山周辺の重要拠点 経塚山~



▲石碑を案内する池田さん。◀9合目付近からの眺め。登山道入り口から山頂までは徒歩約30分。樹木の伐採作業をする車両が通ることがあるため、登山の際は注意しましょう。行き方などは、下山佐交流センター(☎32-3840)まで。

戦国時代、出雲国を平定し、山陰・山陽にまたがる大勢力を築いた尼子経久。その祖父である持久が一切経(※)を写して、山の山頂に埋め、永福を願ったことから呼び名が付いたと言われているのが「経塚山」です。月山富田城の裏鬼門(西南)にあたる山で、天文時代、月山富田城を攻略しようとする大内義隆の家臣、陶隆房が陣を置いた場所とされています。
下山佐交流センターの館長を務めていた池田誠人さんは「この山は、山城だったことから山頂付近には平坦な場所があり、見晴らしも良い。対岸に位置する月山富田城を守るのに重要な拠点だったこともうかがえます」と話します。
登山道は、同交流センター付近から松江市八雲町に通じる市道蕪谷線の途中、東側に入り口を構えています。頂上には、高さ1メートルほどの岩に「経塚」と記した石碑が鎮座。いつ頃建てられたかは不明ですが、まるでこの地を守っているかのよう。
「市内外の人にこの歴史を知ってもらいたい。素晴らしい景色を楽しんでもらえるとうれしい。月山だけでなく周辺地にも興味を持ってもらえるようにすることは、持久が願った『永福』にもつながると考えます」と池田さんは思いをにじませます。
※: 仏教経典全部を指す。

編集後記

▼4月から広報の担当となりました。早速取材をしています。早取材をしていますが、その度に改めて安来市の魅力、地域の方の温かさをを感じる日々です。その魅力を新しい視点から伝える広報を目指します。次号から本格的に編集などに参加します。安来を隅々まで取材したいと思えますのでよろしくお願います(岩)
▼平成から令和、未知のウイルス。さまざまな出来事があったこの4年間。周りに助けられたことは三度、四度ではありません。そうしたこともあり「石にかじりついて」ではないですが、なんとか広報の先輩方の技術と歴史をつないできました。ご協力いただいた皆さまに感謝です。広報を卒業となりました(旬)

安来市の人口と世帯数 R4.3.31現在

人口合計 / 36,857人
(男:17,737人 女:19,120人)
世帯数 / 14,262世帯

